本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO 967

使用説明書

967

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございました。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

なお、この使用説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

時計のお取り扱いで、万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることはありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

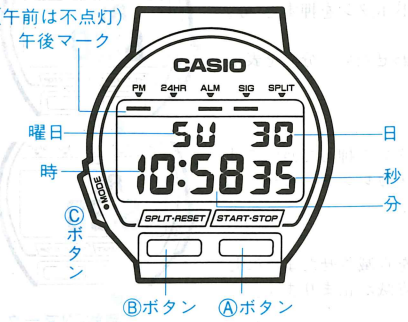
操作のしくみと表示の見方

Ⓒボタンを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。(押すごとに確認音が鳴ります)

※詳しくは各機能の項目をご覧ください。

※各モードでⒶまたはⒷボタンを押した後、Ⓒボタンを押すと、時刻・カレンダーモードに戻ります。

時刻・カレンダーモード

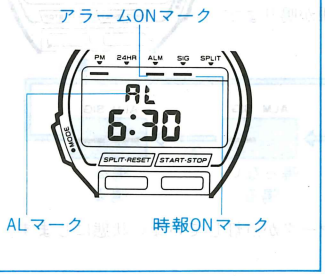


●12/24時間制表示切替

Ⓐボタンを押すごとに12時間制表示(午前/午後"PM")と24時間制表示("24HR")とが切り替わります。

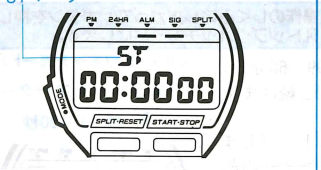
Ⓒ⇩

アラームモード



Ⓒ⇩

ストップウオッチモード



Ⓒ⇨

時刻・カレンダーセットモード



Ⓒ

ご使用上の注意

■防水性 ●裏蓋にWATER RESIST または WATER RESISTANTと表示されているもの。
・10気圧(100M相当)〈表または裏に10BARまたは100Mと表示〉および20気圧(200M相当)〈表または裏に20BARまたは200Mと表示〉、30気圧(300M相当)〈表または裏に30BARまたは300Mと表示〉防水の場合。水仕事や水泳・水上スキー・スキンダイビングなどで使用できますが、専門的な潜水=スキューバダイビング(アクアラング)でのご使用はお避けください。
・5気圧防水(50M相当)〈表または裏に5BARまたは50Mと表示〉の場合。水仕事、水泳などでご使用になる水準です。スキンダイビング、高飛込み、ウインドサーフィンなどでのご使用はお避けください。
・BARまたはMの表示のないもの。洗顔や雨などの日常の使用に耐える構造になっていますが、水泳・入浴・洗車時などでのご使用はお避けください。
●裏蓋にWATER RESIST または WATER RESISTANTと表示されていないもの。防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
●防水性を保つために定期的(2～3年を目安に)なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査をおこないますので、必ずお買上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。(特殊な治具を必要とします)
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水がかかるご使用はお避けください。

■バンド ●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■お手入れのしかた ●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、吸湿性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にご使用ください。
●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

■お手入れを怠ると ●「サビ」・ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
・表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して衣類の袖口を汚すことがあります。
●「かぶれ」・皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。
・特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
・万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

■温　度 直射日光が長くあたったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ・進みが生じたり、止まったりすることがあります。
●+60℃以上の所に長時間放置すると、液晶パネルに支障を来すことがありますのでご注意ください。

■ショック 通常の使用状態でのショックや軽い運動(キャッチボール、テニスなど)には十分耐えますが落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

■磁　気 ●磁気の影響はありません。

■薬品類 水銀や化学薬品(シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類)が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずる場合がありますのでご注意ください。

■保管 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふき取り、高温、多湿の場所をさけて保管してください。

電池交換について

■最初の電池 工場出荷時にモニター用電池が組み込まれていますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

■消　耗 電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

■電池交換 電池交換は必ずお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。電池交換の際、防水検査を行ないます。(防水検査は別途有料となります)

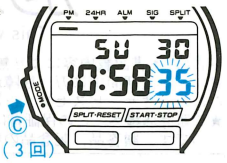
液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

カシオ計算機株式会社

秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正

月に一度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

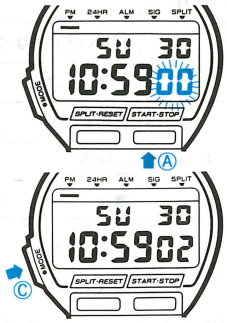


(1)時刻表示のときに、Ⓒボタンを３回押すと「秒」が点滅します。

(2)時報に合わせて、Ⓐボタンを押すと「秒」が00秒からスタートします。

秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは１分くりあがって、00秒からスタートします。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。



(3)秒合わせが終わりましたら、Ⓒボタンを押すと時刻表示に戻ります。

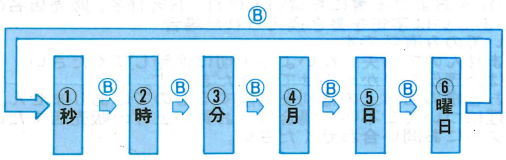
時刻・カレンダーの合わせ方

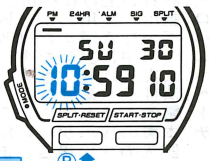
電池交換後などで時刻・カレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。



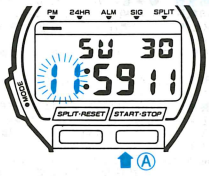
(1)時刻表示のときにⒸボタンを３回押すと「秒」が点滅します。

(2)Ⓑボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。点滅箇所がセット可能ですので、セットしたい箇所を点滅させます。





(3)点滅箇所が秒以外のときは、Ⓐボタンを押すごとに１つずつ進みますので、セットしたい数字を表示させます。
※Ⓐボタンは押し続けると早送りができます。



Ⓑボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓐボタンで表示をセットする操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。
注)「時」のセットのとき午前（不点灯）／午後（ PM ）、24時間制（ 24HR ）にご注意ください。

(4)セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押して点滅を止めます。

※時刻セットのときに表示を点滅させたままにしておくと、１～２分後自動的に点滅が止まります。
※カレンダーは大の月、小の月を自動判別するオートカレンダーですので、うるう年の２月29日以外は修正不要です。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±30秒
表示方式：FE型液晶デジタル表示
基本機能：時刻表示＝時・分・秒
　カレンダー表示＝日・曜日
アラーム機能：時刻アラーム　セット単位＝分　電子ブザー＝20秒間
　時報　毎正時に２回電子ブザーで報時
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒　計測範囲＝59分59秒99（60分計）
　計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能、アラームセット機能
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ワンチップCMOS-LSI
使用電池：CR-1220（電池別途販売）
電池寿命：約３年（１日につき電子ブザーを20秒使用した場合）

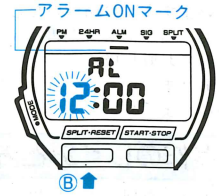
アラーム・時報の使い方…操作のしくみにしたがってⒸボタンを押し、アラームモードにします。

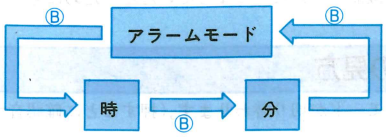
アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子ブザーで知らせてくれます。
また、毎正時（00分のとき）を“ピッピッ”と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。



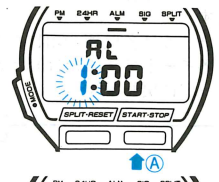
●アラームのセットのしかた

(1)アラームモードでⒷボタンを押すと「時」が点滅します。
※アラームONマークが点灯します。
このときⒷボタンを押すごとに点滅箇所が下記のように移動します。点滅箇所がセット可能ですのでⒷボタンを押してセットしたい箇所を点滅させます。





(2)点滅箇所の表示数字がⒶボタンを押すごとに１つずつ進みますので、合わせたい「時」を表示させます。
※Ⓐボタンは、押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前／午後にご注意ください。
※基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。

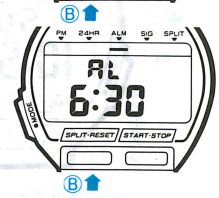


(3)「時」のセットが終わりましたら、Ⓑボタンを押すと「分」が点滅します。
「分」も「時」と同様な操作で合わせたい「分」を表示させます。



(4)セットが終わりましたら、Ⓑボタンを押して点滅を止めます。(Ⓒボタンを押すと時刻・カレンダーモードに戻ります)

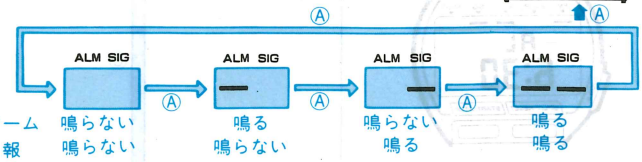
※アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、１～２分後自動的に点滅が止まります。



●アラーム・時報を鳴らすには

アラームモードのとき、Ⓐボタンを押すごとにアラームONマーク（ ALM ）、時報ONマーク（ SIG ）が以下の順で点灯・不点灯をくりかえします。各マークとも点灯しているときがONで、アラーム・時報が鳴ります。





※アラーム・時報を鳴らさないときは、各マークが点灯していない状態にします。

●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるには、Ⓑボタンを押します。

●モニターアラーム

アラームモードでⒶボタンを１～２秒以上押し続けると、電子ブザーが鳴ります。

ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがってⒸボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で59分59秒99（60分計）まで計測でき、以後自動的に０に戻って計測し続けます。



●計測のしかた

Ⓐボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。計測中Ⓑボタンを押すと表示は止まりますが内部では計測を続けるスプリット計測(スプリットマーク点灯)となります。
Ⓐボタンを押すと操作確認音が鳴ります。

●スプリットⒷ　Ⓐ　●スタート
●リセット　●ストップ

●通常の計測

Ⓐ スタート → Ⓐ ストップ → Ⓑ リセット

※積算計測…ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート（Ⓐボタンを押す）すれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓐ スタート → Ⓑ スプリット計測 → Ⓑ スプリット解除 → Ⓐ ストップ → Ⓑ リセット

●１着・２着のタイム同時計測

Ⓐ スタート → Ⓑ １着がゴール（１着タイム表示） → Ⓐ ２着がゴール → Ⓑ ２着タイム表示 → Ⓑ リセット